

アジール

支援プログラム

作成日

令和6年

3月

31 目

法人（事業所）理念		思いを育てる 未来を創る											
支援方針		家族：ご本人を支え、家族とともに考える、福祉：高い専門性と先端性の研磨、環境：最善のサービスがある環境を整備 地域：地域で暮らし続けられるまちづくり、未来：私たちはみんなで新しい価値を作る											
営業時間		(平日)	13	時	0	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
(休日)		9	時	0	分から	16	時	30	分まで				
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	○一人ひとりの特性に配慮し、身辺自立やより安全で効率的に、できるだけ一人でできる手順方法、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。 ○一人ひとりの特性に合った療育プログラムの提供、やりたい事を選択できる過ごし方の提案。											
	運動・感覚	○公認心理士による「SP感覚プロファイル」を用いたアセスメントの実施。その結果を基盤にしたより適正な支援を提供する。 ○一人ひとりに合った補助具を活用することにより、感覚の過敏さや鈍麻さを改善し、自身のペースで集団参加ができるよう工夫する。											
	認知・行動	○応用行動分析(ABA)・積極的行動支援(PBS)の考えを用いた支援、行動を制限せずに問題となる行動の背景を考え、原因を探り理想的な行動・代替行動を引き出していく。 ○利用者の特性に合った過ごし方・環境を調整し、そのなかでコミュニケーションや意思表示、様々な経験獲得をロールプレイングとして実施・評価を繰り返し、一人ひとりがその子らしく考える事、過ごす事が出来る土台を構築する。											
	言語 コミュニケーション	○個々に合った表出の仕方(言葉、文字盤、絵・写真カード)を活用した、自発的な意思の発信、行動、やり取りの提案。コミュニケーションの支援。 ○個々の特性を理解し、利用者側からの意思表示の手段の拡充（言葉、文字盤、絵・写真カード・PECS）と、様々な選択肢を持つための経験を積む機会を確保する。 職員側も表出を共有理解し受容・肯定することで更なる自発的な行動や発信、やり取りへ繋げる機会を日常的に設定する。											
	人間関係 社会性	○小集団でのSSTの実施。日常生活場面でのSSTを行うことでより具体的な対応を検討する。 ○一人ひとりの地域社会への参画、参加。インクルージョンの役割として、集団・小集団での育ちを地域の中で積み重ねることのできる場を提供し、一人一人の個性と可能性を大切に、特性を理解した支援を行う。 ○一人一人の個性を尊重した体験活動を地域の中で展開し、生活する上で必要な身辺自立を高めることのできる活動や、体験を元に将来に必要な知識・スキルを身につける支援を行う。											
家族支援		○電子連絡帳を使用した連絡体制の確立。5領域に沿った記録。 ○保護者・利用者への適切なアセスメントのもと、子ども達的意思決定と将来に向けた個別支援計画の作成、家族が安心して社会生活を営めるよう長期休暇時の延長支援のニーズに応えるなど、こちらからの確な支援を提案・提供し、年間を通して丁寧な支援を実施する。							移行支援		○保護者や本人の意向をふまえ、アジール生活介護事業所への進路をつなげる。 ○他事業所との連携を深め、本人らしく過ごせる居場所を検討する。		
地域支援・地域連携		○自立支援協議会サービス管理責任者部会放課後等デイサービス支部への参加。 ○小中学校と関係機関連携や担当者会議等を通して情報共有、支援方法を統一する。							職員の質の向上		○虐待防止研修(年2回) ○支援内容についての研修 ○外部研修への参加		
主な行事等		ほっとこどもBBQ（5月）、アジール祭り(11月)、避難訓練（6月・11月） バリアフリー演劇祭											